

製品名: mTOR (リン酸化 Ser2448) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05045**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット、ウシ、その他
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:200-1:1000,ELISA 1:20000-1:40000
分子量	289kDa

抗原情報

遺伝子名	MTOR MTOR; FRAP; FRAP1; FRAP2; RAFT1; RAPT1; Serine/threonine-protein kinase mTOR; FK506-binding protein 12-rapamycin complex-associated protein 1; FKBP12-rapamycin complex-associated protein; Mammalian target of rapamycin; mTOR; Mechanistic tar
別名	
遺伝子 ID	2475.0
SwissProt ID	P42345
免疫原	抗血清は、Ser2448 のリン酸化部位周辺のヒト mTOR 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 2415-2464

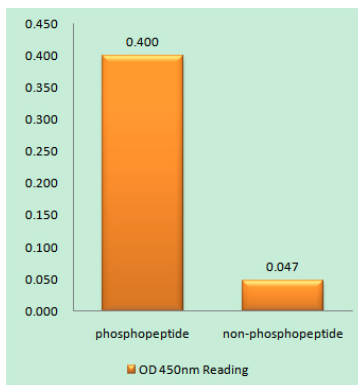
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、ホスファチジルイノシトールキナーゼ関連キナーゼファミリーに属します。これらのキナーゼは、DNA 損傷や栄養欠乏などのストレスに対する細胞応答を媒介します。このタンパク質は、FKBP12-ラパマイシン複合体による細胞周期停止および免疫抑制作用の標的として機能します。ANGPTL7 遺伝子はこの遺伝子のイントロンに位置しています。[RefSeq 提供、2008 年 9 月]、機能: FKBP12-ラパマイシン複合体による細胞周期停止および免疫抑制作用の標的として機能します。AKT1 Ser-473 のリン酸化に重要な役割を果たし、PKCA のリン酸化を調整してアクチン細胞骨格の構成を制御する可能性がある TORC2 複合体の一部です。類似性:PI3/PI4 キナーゼファミリーに属します。類似性:1 つの FAT ドメインを含みます。類似性:1 つの FATC ドメインを含みます。類似性:1 つの PI3K/PI4K ドメインを含みます。類似性:7 つの HEAT 繰り返しを含みます。サブユニット:FKBP12-ラパマイシン複合体と相互作用します。UBQLN1 に結合します。FRAP1、GBL、PRR5、RICTOR、および SIN で構成される哺乳類ラパマイシン標的タンパク質 2 複合体 (TORC2) の一部を形成します。TORC2 は FKBP12-ラパマイシンに結合せず、感受性もありません。TORC2 複体内の PRR5 および RICTOR に直接結合します。組織特異性:多くの組織で発現しており、精巣で最も高く発現しています。、

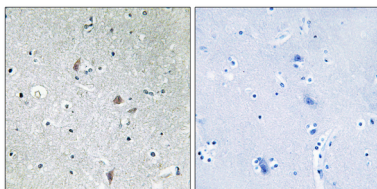
研究分野

血管新生を制御する; インスリン受容体; ErbB/HER; mTOR; B 細胞受容体; PI3K/Akt; AMPK

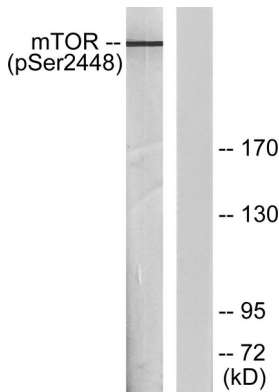
画像データ



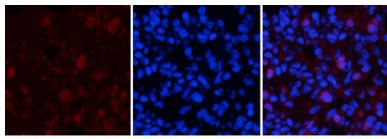
mTOR (リン酸化 Ser2448) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



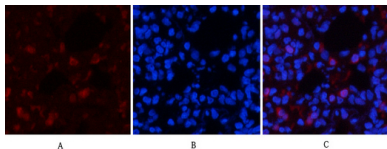
mTOR (リン酸化 Ser2448) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト脳の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



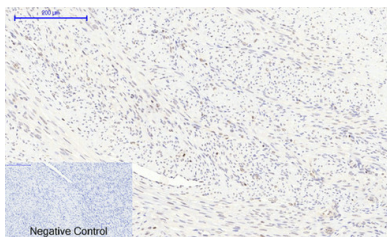
EGF 200 ng/ml 30 μ L 処理した HeLa 細胞ライゼートの mTOR (リン酸化 Ser2448) 抗体を用いたウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



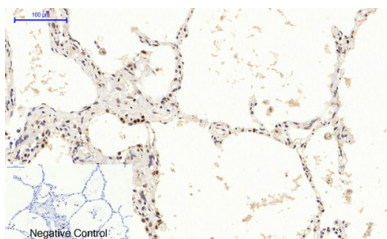
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, mTOR (リン酸化 Ser2448) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



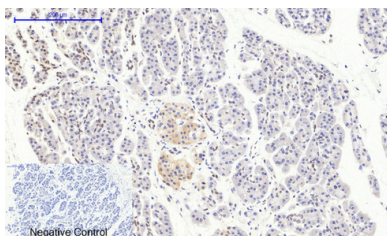
ラット肺組織の免疫蛍光染色。1, mTOR (リン酸化 Ser2448) ポリクローナル抗体 (赤) を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2, Cy3 標識二次抗体を 1:300 に希釈 (室温、50 分)。3, 図 B: DAPI (青) 10 分。図 A: ターゲット。図 B: DAPI。図 C: A+B の合成。



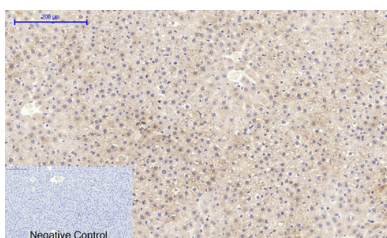
パラフィン包埋ヒト子宮癌組織の免疫組織化学染色。1. mTOR (リン酸化 Ser2448) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98 $^{\circ}$ C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト肺組織の免疫組織化学染色。1. mTOR (リン酸化 Ser2448) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム pH 6.0 を用いて抗体賦活化 (>98 $^{\circ}$ C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ヒト胃癌組織の免疫組織化学染色。1. mTOR (リン酸化 Ser2448) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98 $^{\circ}$ C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。



パラフィン包埋ラット肝組織の免疫組織化学染色。1. mTOR (リン酸化 Ser2448) ポリクローナル抗体を 1:200 に希釈 (4 $^{\circ}$ C、一晚)。2. クエン酸ナトリウム (pH 6.0) を用いて抗体賦活化 (>98 $^{\circ}$ C、20 分) を行った。3. 二次抗体を 1:200 に希釈 (室温、30 分)。ネガティブコントロールとして二次抗体のみを用いた。

